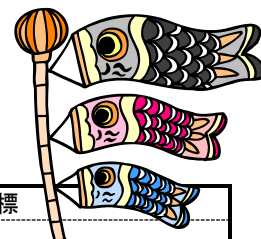


文部科学省 研究開発学校「徳育科」

武蔵村山市新教科「徳育」推進モデル校



文部科学省 コミュニティ・スクール マネジメント強化研究校

東京教師養成指定校

武蔵村山市理科観察実験支援事業校

武蔵村山市N I E実践校

ラオス・パチュドン校姉妹校

	コミュニティ・スクール	教育目標
	八小だより	◎ 考える子 ○ 思いやりのある子 ○ やりとげる子
武蔵村山市立第八小学校 平成27年 5月 1日 (新アドレス) http://www.city.musashimurayama.lg.jp/mmced8s/index.html		行動目標 わけをそえて話すことができる子 教室で話しているのは一人

挨拶ができる・話が聞ける

校長 牧 一彦

新緑がさわやかな季節を迎えました。新学期がスタートして1カ月。新しい学年、新しい教室、新しい友達にもすっかりと慣れ、みんな元気に登校しています。

晴天のもと、4月24日に実施した兄弟学級遠足では、4・5・6年生のそれぞれが、上級生としての立派な姿を見せることができ、とても嬉しく思います。下級生の手を引きながら、安全に気を付けて歩く上級生。そこには、年下をいたわる優しい心と責任感を見ることができました。1・2・3年生の子たちも上級生の言うことをよく聞き、素直な態度で接することができ、微笑ましく感じました。

さて、4月の保護者会やPTA総会でも繰り返し御説明してきましたが、いよいよこの4月から、新教科「徳育科」の授業を開始いたしました。「徳育科」とは、文部科学省研究開発学校(※下枠参照)の本校が開発中の新しい教科で、従来の道徳の時間で扱う価値項目の指導に、「礼儀作法・マナー」に関する内容を加えた内容で構成します。そして、6年間のスパイラルな指導をとおして、「礼儀正しい八小の子」の育成を目指すものです。

徳育科の授業が始まって1カ月、学校での指導の成果かどうかはわかりませんが、徐々に様々な場面で子供たちの変容を見ることができています。例えば、私がお客さんを連れて校内を案内していると、すれ違う子供たちの態度が、これまでとは少し違います。「立ち止まってきちんと礼をする子」、「『こんにちは』と元気よく挨拶する子」、「声に出さなくてもすれ違いざまに軽く頭を下げる子」が格段に増えています。このような変化は、校長の私を感じるだけでなく、地域の方から聞かれることもあり、とても嬉しく思っています。また、体育館や校庭に全校児童が集まった時でも、勝手なおしゃべりをする子は一人もいません。黙って壇上の人話に集中できるようになってきました。

「徳育科」の授業は、例えば挨拶の仕方など、「型」を教えるだけではありません。「なぜ挨拶をすることが大切なのか」「挨拶をしないとどんな気持ちになるのか」など、指導する価値の必要感や意義について、子供自身が「考え」、どのように振る舞ったらいいか「判断する」等の学習活動を伴って実施します。そうすることにより、日常生活で活用することのできる実践力を付けられるのではないかと考えています。

ただ、「徳育科」の学習も、通常の教科と同様で、学校の授業だけで完結するものではありません。子供たちが家庭や地域に帰った時にも、その力を発揮できるように、御家庭や地域におかれましても、学校での指導と同じベクトルで御指導・御支援いただけますようお願い申し上げます。

文部科学省 研究開発学校とは

- 文部科学省が、教育課程の基準の改善等に資する実証的資料を得るために、現行の教育課程の基準によらない教育課程の編成・実施を認めるという制度
- ・学校における様々な教育上の課題や急激な社会の変化・発展に伴って生じた学校教育に対する多様な要請に対応するため、研究開発を行おうとする学校を「研究開発学校」として指定している。
- ・その学校には、学習指導要領等の基準によらない教育課程の編成・実施を認め、その実践研究を通して新しい教育課程・指導方法を開発していこうとするもの。
- ・その成果は、今後の学習指導要領の改訂等に際しても生かされることになる。